

グローバル・コミュニケーション学部での学び

グローバル・コミュニケーション学部は、同志社大学の掲げる「自由主義」・「キリスト教主義」・「国際主義」という3つの基本的教育理念のなかでも、とりわけ「国際主義」を現代に体現する人物の養成を目的に開設されました。

本学部における4年間の学びの体系であるカリキュラムは、(1) 高度で、実践的・実用的外国語運用能力の育成、(2) コミュニケーション能力の育成、(3) 各外国語及び言語そのものに関する知識の育成、(4) 各外国語及びその外国語圏に関する、文化的・社会的・歴史的背景への理解力の育成を主軸として設計されました。このカリキュラムに沿って、皆さんは自らの学びの目標を定め、日々学習に励んでください。この学部が皆さんにとって、留学体験を含め、充実した学びの場となり、皆さんが豊かなコミュニケーション能力を身につけた国際人となられるよう、教職員一同、心より願っております。

グローバル・コミュニケーション学部
学部長 伊勢 晃

目指すべき人材（物）像

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科は、グローバル化した社会に対する幅広い教養と国際的センス、強い自立心と倫理観を養わせると同時に、高度で実践的・実用的外国語運用能力を習得させることをとおして、ビジネス関連の諸分野や教育機関、また国際政治や文化交流に係わる非営利事業の諸分野などの国際的舞台で、facilitator、negotiator、administratorとして活躍できる人材を養成することを目的とする。

● 英語コース

現代における世界共通言語としての英語の重要性に鑑み、卓越した英語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び英語圏文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、グローバル時代を牽引する人材を養成することを目的とする。

● 中国語コース

国境を越えて地球規模で展開する中国語の重要性に鑑み、卓越した中国語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び中国語圏文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、中国語圏への架け橋となる人材を養成することを目的とする。

● 日本語コース

留学生を対象とする日本語コースでは、日本文化・社会への深い造詣を持つ人材育成の重要性に鑑み、卓越した日本語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び日本文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、日本と世界を結ぶ架け橋となる人材を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

グローバル・コミュニケーション学部では、現代世界のグローバル化の構造と動態、及び異文化に対する理解を基礎に、卓越したコミュニケーション能力を駆使して、facilitator、negotiator、administratorとして活躍できる資質・能力を備えた学生に学士（グローバル・コミュニケーション学）学位を授与する。

<知識・技能>

高度な外国語運用能力を習得するとともに、幅広い教養を身につけ、グローバル社会の構造と動態、及び異文化を理解できる。

<思考力・判断力・表現力>

グローバル社会における多様な視点を理解したうえで、社会が直面する様々な問題について深く考察し、その解決法を見出すべく、自らのことばで考えを伝え、立場や意見の相違を乗り越え対話できる。

<主体性・多様性・協働性>

卓越したコミュニケーション能力を駆使して相互理解を促進し、多様な文化や価値観を持つ人々と協働して、問題解決のために高い倫理観を持って主体的に行動することができる。

〈2018年度以降生対象〉 カリキュラム・ポリシー

高度な外国語コミュニケーション能力の習得を目指し、グローバル化した現代社会に対応すべく、米国の21世紀に向けた外国語教育指針(5C's)を取り入れた教育課程を編成している。

5C'sとはコミュニケーションに不可欠の5つの要素 communication、cultures、connections、comparisons、communitiesの頭文字を取ったものである。コミュニケーションのための高度な実践的外国語運用能力を習得し(communiation)、グローバル化した現代社会と異文化や外国語に関する情報を獲得し(cultures & connections)、習得を目指す外国語が用いられている社会に実際に加わり(communities)、その外国語や異文化に対する理解を深めつつ母語や自国文化を比較・相対化すること(connections & comparisons)は、本学部が育成を目指す facilitator、negotiator、administratorとしてグローバル社会の諸分野で活躍するための必須要件である。本学部の全ての科目はこの目的の実現に貢献するように構想されている。

3コースの教育課程は、必修科目、選択科目Ⅰ(演習系)、選択科目Ⅰ(講義系)、選択科目Ⅰ(初修外国語ないし共修外国語)、選択科目Ⅱ、選択科目Ⅲから構成されている。

●英語コース

▶必修科目

卓越したコミュニケーション能力を有した人物を養成するため、必修科目では、基礎的知識・教養を身につける基礎講義科目(6単位)、英語運用能力の伸長を目的とした基礎外国語科目群(18単位)、課題解決に必要な方法論や主体性、論理的思考力・表現力を養うゼミ関係科目(18単位)からなる科目を設置している。
・1年次では、少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、英語運用能力を習得するとともに、基礎講義科目においてグローバル社会の構造と動態、および異文化理解に関する基礎的知識・教養を身につける。また、ゼミ関係科目での学生主体の学修

を通じて、大学における自律的な学びを促すとともに、アカデミック・スキルを習得する。

・3年次から4年次では、ゼミ関係科目で専門分野に関する文献を講読し、課題について根拠を示して自らのことばで意見をまとめ発表する学修を通じて、論理的思考力・表現力を涵養する。また、3コースの学生が協力して一つのプロジェクトを企画、立案、運営する「Seminar Project」での協働作業を通じて、課題解決のために、多様な価値観を尊重しつつ主体的に行動する力を身につける。

▶選択科目Ⅰ

必修科目を補完・強化するために、選択科目Ⅰを設置している。
・選択科目ⅠA群(演習系、8単位以上)は、より高度な実践的英語運用能力の習得を目的とした選択科目群である。対話や自己表現を重んじる実践的な演習形式の授業を通じて、多様な主張や意見に耳を傾け、問題点を整理し、課題解決にむけて英語ということばで自らの意見や主張を論理的に述べることができる表現力を養う。
・選択科目ⅠB、C、D(講義系)は、グローバル化した現代社会におけるコミュニケーションの役割や異文化に対する深い理解力を養う専門講義系科目群である。社会の構造と動態に関するB群、異文化理解とコミュニケーション理論に関するC群、ことばの科学に関するD群のそれぞれから、6単位以上の履修を義務づけ、文献の講読やリサーチをとおして専門的な知識を身につけると同時に、コミュニケーションを論理的に分析する思考力と、自らの考えを根拠とともに説明、議論できる表現力を養う。
・選択科目ⅠE群(初修外国語、6単位以上)は、英語に加えて、もう一つの外国語を学修することを目的とした科目群である。少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、グローバル化した社会を複眼的かつ相対的に見る視野を涵養し、現代社会の多様性に対する理解を深めるとともに、英語以外の外国語によって自らの考えや意見を述べるができる表現力を養う。
・選択科目ⅠF群(演習系)は、グローバル時代の英語教育を牽引する教員養成を主眼とした科目群である。実践的な演習形式の授業をとおして、英語科教員に必要な知識・技能を養う。

務づけ、文献の講読やリサーチをとおして専門的な知識を身につけると同時に、コミュニケーションを論理的に分析する思考力と、自らの考えを根拠とともに説明、議論できる表現力を養う。

・選択科目ⅠE群(初修外国語、6単位以上)は、英語に加えて、もう一つの外国語を学修することを目的とした科目群である。少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、グローバル化した社会を複眼的かつ相対的に見る視野を涵養し、現代社会の多様性に対する理解を深めるとともに、英語以外の外国語によって自らの考えや意見を述べるができる表現力を養う。

・選択科目ⅠF群(演習系)は、グローバル時代の英語教育を牽引する教員養成を主眼とした科目群である。実践的な演習形式の授業をとおして、英語科教員に必要な知識・技能を養う。

▶ 選択科目Ⅱ

選択科目Ⅱは、英語圏の大学での留学 (Study Abroad) をとおして、コミュニケーション能力のさらなる伸長を目的として設けられている科目群である。英語コースでは2年次に1年間のStudy Abroadが必修となっており、2単位以上の単位取得が義務づけられている。

・異なる文化圏での生活経験と実践的な学修をとおして、英語運用能力を伸長させるとともに、異文化に関する幅広い知識と教養を身につける。

・自律的学修と対話、自己表現を重んじる人文科学、社会科学系正課科目の授業を通じて、専門的学修の基盤となる知識と教養を身につけると同時に、課題解決のために主体的に学ぶ能力と論理的思考力・表現力を養う。

・異なる文化や価値観を持つ人々との対話を通じて、偏見にとらわれることのない寛容の精神を養い、相互理解にむけて努力する態度を身につける。また異文化間の様々な違いを乗り越えて協働しながら、課題解決に向けて主体的に取り組む行動力を養う。

▶ 選択科目Ⅲ

専門知識を補足し、真の教養人を養成するために選択科目Ⅲ (14単位以上) を設けている。選択科目Ⅲは幅広い教養を養う教養系科目群である。ここでは、全学共通教養教育科目 (同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目及びテュービンゲン大学 IES

科目が含まれる。選択科目Ⅲは、専門知識だけではなく、グローバル社会の諸分野で facilitator、negotiator、administrator として活躍できるようになるという目標を実現するために、広い視野と豊かな教養を得ることを目的としている。また、在学中から卒業後のキャリア設計を視野に入れ、協働性や主体性を身につけ、卒業後の人生設計ができるようになるために、キャリア形成支援科目の履修を推奨している。

●中国語コース

▶ 必修科目

卓越したコミュニケーション能力を有する人物を養成するため、必修科目では、基礎的知識・教養を身につける基礎講義科目 (4単位)、中国語運用能力の伸長を目的とした基礎・上級外国語科目 (28単位)、課題解決に必要な方法論や主体性、論理的思考力・表現力を養うゼミ関係科目 (16単位) からなる科目を設置している。

・1年次から2年次春学期では、少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、中国語運用能力を習得するとともに、基礎講義科目においてグローバル社会の構造と動態、および中国語圏社会の諸相や異文化理解に関する基礎的知識・教養を身につける。また、ゼミ関係科目での学生主体の学修を通じて、大学にお

ける自律的な学びを促すとともに、アカデミック・スキルを習得する。

・3年次秋学期から4年次では、ゼミ関係科目で専門分野に関する文献を講読し、課題について根拠を示して自らのことばで意見をまとめ発表する学修を通じて、論理的思考力・表現力を涵養する。また、3コースの学生が協力して一つのプロジェクトを企画、立案、運営する [Seminar Project] での協働作業を通じて、課題解決のために、多様な価値観を尊重しつつ主体的に行動する力を身につける。

▶ 選択科目Ⅰ

必修科目を補完・強化するために、選択科目Ⅰを設置している。

・選択科目ⅠA群1類 (演習系、6単位以上) は、主に低年次生を対象に中国語のリスニング・ライティング能力の伸長を目的とした選択科目群である。演習形式の授業を通じて、中国語ネイティブの発話を理解し、自らの考えを論理的に表現できる能力を養う。

・選択科目ⅠA群2類 (演習系、8単位以上) は、より高度な実践的中国語運用能力の習得を目的とした選択科目群である。対話や自己表現を重んじる実践的な演習形式の授業を通じて、多様な主張や意見に耳を傾け、問題点を整理し、社会の様々な場面において中国語を使って自らの意見や主張を論理的に述べることができる表現力を養う。

・選択科目ⅠB、C、D群 (講義系) は、グローバル化した現代社会におけるコミュニケーションの役割や異文化に対する深い理

解力を養う専門講義系科目群である。中国語圏社会の構造と動態に関するB群、異文化理解とコミュニケーションに関するC群、ことばの科学に関するD群のそれぞれから4単位以上の履修を義務づけ、文献の講読やリサーチをとおして専門的な知識を身につけると同時に、コミュニケーションを論理的に分析する思考力と、自らの考えを根拠とともに説明、議論できる表現力を養う。

・選択科目ⅠE群 (英語、8単位以上) は、グローバル社会に必須である英語を学修することを目的とした科目群である。少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、世界を複眼的かつ相対的に見る視野を涵養し、現代社会の多様性に対する理解を深めるとともに、英語によって自らの考えや意見を述べることができる表現力を養う。

▶ 選択科目Ⅱ

選択科目Ⅱは、中国語圏の大学での留学 (Study Abroad) をとおして、コミュニケーション能力のさらなる伸長を目的として設けられている科目群である。中国語コースでは2年次春学期から3年次秋学期にかけて、1年間のStudy Abroadが必修となっており、2単位以上の単位取得が義務づけられている。

・異なる文化圏での生活経験と実践的な学修をとおして、中国語

運用能力を伸長させるとともに、異文化に関する幅広い知識と教養を身につける。

・異なる文化や価値観を持つ人々との対話を通じて、偏見にとらわれることのない寛容の精神を養い、相互理解にむけて努力する態度を身につける。また異文化間の様々な違いを乗り越えて協働しながら、課題解決に向けて主体的に取り組む行動力を養う。

▶ 選択科目Ⅲ

専門知識を補完し、真の教養人を養成するために選択科目Ⅲ(14単位以上)を設けている。ここには、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目及びテュー

ビンゲン大学 IES 科目が含まれる。選択科目Ⅲは、専門知識だけではなく、グローバル社会の諸分野で facilitator、negotiator、administrator として活躍できるようになるという目標を実現するために、広い視野と豊かな教養を得ることを目的としている。また、在学中から卒業後のキャリア設計を視野に入れ、協働性や主体性を身につけ、卒業後の人生設計ができるようになるために、キャリア形成支援科目の履修を推奨している。

●日本語コース

▶ 必修科目

卓越したコミュニケーション能力を有した人物を養成するため、必修科目では、基礎的知識・教養を身につける基礎講義科目(2単位)、日本語運用能力の更なる伸長を目的とした基幹日本語科目(12単位)、課題解決に必要な方法論や主体性、論理的思考力・表現力を養うゼミ関係科目(26単位)、日本社会参画のための知識・教養・主体性を身につけるプロジェクト型講義科目(4単位)からなる必修科目を設置している。

・1年次から2年次では、少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、日本語運用能力を習得するとともに、講義科目において異文化理解に関する基礎的知識・教養を身につける。また、ゼミ関係科目では、日本語や日本社会を考える上で必要な基礎的な理論とその応用に対する理解を深めるのはもちろん、学生

主体の学修を通じて、大学における自律的な学びを促し、アカデミック・スキルを習得する。さらに、学外の特別講師による講義やワークショップを通じて、日本社会を考えるための知識・教養を身につけるとともに、主体的に考え、行動するための足掛かりを築く。

・3年次から4年次では、ゼミ関係科目で専門分野に関する文献を講読し、課題について根拠を示して自らのことばで意見をまとめ発表する学修を通じて、論理的思考力・表現力を涵養する。また、3コースの学生が協力して一つのプロジェクトを企画、立案、運営する「Seminar Project」での協働作業を通じて、課題解決のために、多様な価値観を尊重しつつ主体的に行動する力を身につける。

▶ 選択科目Ⅰ

必修科目を補完・強化するために、選択科目Ⅰを設置している。・選択科目ⅠA群(主として演習系、10単位以上)は、より高度な実践的日本語運用能力の習得を目的とした選択科目群である。日本の時事問題についての議論や日本での就職活動や企業勤務に必要な知識や表現力を身につける実践的な演習形式の授業を通じて、客観的分析力と、自らの考えを説得的に表現できる力を養う。また、日本語と中国語、あるいは、コリア語の通訳・翻訳の理論や実践を通じて、通訳・翻訳に不可欠である的確な表現力の獲得を目指す。

・選択科目ⅠB、C、D群(講義系)は、グローバル化した日本の現代社会におけるコミュニケーションの役割や異文化に対する深い理解力を養う専門講義系科目群である。日本社会の構造と動態に関するB群、日本の現代文化の諸相に関するC群、ことばの科学に関するD群のそれぞれから6単位以上の履修を義務づけ、文献の講読やリサーチをとおして専門的な知識を身につける

と同時に、コミュニケーションを論理的に分析する思考力と、自らの考えを根拠とともに説明、議論できる表現力を養う。さらに、英語コースの選択科目ⅠB、C、D群、中国語コースの選択科目ⅠB、C、D群からも履修することができる。その場合、修得した単位は、各コースの選択科目から6単位ずつ(合計12単位)を上限として卒業必要単位に含めることができる。

・選択科目ⅠE群(日本語および第二外国語、6単位以上)は、4年間に及ぶ日本語での科目履修に支障がないよう、日本語力の強化を目的とした科目群、および、グローバル社会に必須である第二外国語を学修することを目的とした科目群で構成される。少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、グローバル化した社会を複眼的かつ相対的に見る視野を涵養し、現代社会の多様性に対する理解を深めるとともに、外国語で自らの考えや意見を述べるることができる表現力を養う。

▶ 選択科目Ⅱ

選択科目Ⅱ(演習系、3単位以上)は、現地実習や特別講師を招く形式で、必修科目や選択科目Ⅰ群で学修した日本の文化や社会についての少人数による演習を行い、知識の定着を図るために

設けられている科目群である。体験学習を通じて、学外の特別講師の指導を受けながら、主体的に他の受講者と協働して学ぶ能力、学んだことを論理的思考力によって表現する能力を養う。

▶ 選択科目Ⅲ

専門知識を補完し、真の教養人を養成するために選択科目Ⅲ(1単位以上)を設けている。ここには、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、他学部設置科目、日本語・日本文化教育科

目(日本事情科目)、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目及びテュービンゲン大学 IES 科目が含まれる。選択科目Ⅲは、専門知識だけではなく、グローバル社会の諸分野で facilitator、negotiator、administrator として活躍できるようになるという目標を実現するために、広い視野と豊かな教養を得ることを目的としている。

〈2017年度生対象〉カリキュラム・ポリシー

高度な外国語コミュニケーション能力の習得を目指し、グローバル化した現代社会に対応すべく、米国の21世紀に向けた外国語教育指針(5C's)を取り入れた教育課程を編成している。

5C'sとはコミュニケーションに不可欠の5つの要素 communication、cultures、connections、comparisons、communitiesの頭文字を取ったものである。コミュニケーションのための高度な実践的外国語運用能力を習得し(communication)、グローバル化した現代社会と異文化や外国語に関する情報を獲得し(cultures & connections)、習得を目指す外国語が用いられている社会に実際に加わり(communities)、その外国語や異文化に対する理解を深めつつ母語や自国文化を比較・相対化すること(connections & comparisons)は、本学部が育成を目指す facilitator、negotiator、administratorとしてグローバル社会の諸分野で活躍するための必須要件である。本学部の全ての科目はこの目的の実現に貢献するように構想されている。

3コースの教育課程は、必修科目、選択科目Ⅰ(演習系)、選択科目Ⅰ(講義系)、選択科目Ⅰ(初修外国語ないし共修外国語[英語コースと中国語コースのみ])、選択科目Ⅱ、選択科目Ⅲから構成されている。

●英語コース

▶必修科目

卓越したコミュニケーション能力を有した人物を養成するため、必修科目では、基礎的知識・教養を身につける基礎講義科目(6単位)、英語運用能力の伸長を目的とした基礎外国語科目群(18単位)、課題解決に必要な方法論や主体性、論理的思考力・表現力を養うゼミ関係科目(18単位)からなる科目を設置している。

- ・1年次では、少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、英語運用能力を習得するとともに、基礎講義科目においてグローバル社会の構造と動態、および異文化理解に関する基礎的知識・教養を身につける。また、ゼミ関係科目での学生主体の学修

を通じて、大学における自律的な学びを促すとともに、アカデミック・スキルを習得する。

- ・3年次から4年次では、ゼミ関係科目で専門分野に関する文献を講読し、課題について根拠を示して自らのことばで意見をまとめ発表する学修を通じて、論理的思考力・表現力を涵養する。また、3コースの学生が協力して一つのプロジェクトを企画、立案、運営する「Seminar Project」での協働作業を通じて、課題解決のために、多様な価値観を尊重しつつ主体的に行動する力を身につける。

▶選択科目Ⅰ

必修科目を補完・強化するために、選択科目Ⅰを設置している。

- ・選択科目ⅠA群(演習系、8単位以上)は、より高度な実践的英語運用能力の習得を目的とした選択科目群である。対話や自己表現を重んじる実践的演習形式の授業を通じて、多様な主張や意見に耳を傾け、問題点を整理し、課題解決にむけて英語ということばで自らの意見や主張を論理的に述べるができる表現力を養う。
- ・選択科目ⅠB、C、D(講義系)は、グローバル化した現代社会におけるコミュニケーションの役割や異文化に対する深い理解力を養う専門講義系科目群である。社会の構造と動態に関するB群、異文化理解とコミュニケーション理論に関するC群、ことばの科学に関するD群のそれぞれから、6単位以上の履修を義務づけ、

文書の講読やリサーチをとおして専門的な知識を身につけると同時に、コミュニケーションを論理的に分析する思考力と、自らの考えを根拠とともに説明、議論できる表現力を養う。

- ・選択科目ⅠE群(初修外国語、6単位以上)は、英語に加えて、もう一つの外国語を学修することを目的とした科目群である。少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、グローバル化した社会を複眼的かつ相対的に見る視野を涵養し、現代社会の多様性に対する理解を深めるとともに、英語以外の外国語によって自らの考えや意見を述べるができる表現力を養う。

- ・選択科目ⅠF群(演習系)は、グローバル時代の英語教育を牽引する教員養成を主眼とした科目群である。実践的な演習形式の授業をとおして、英語科教員に必要な知識・技能を養う。

▶ 選択科目Ⅱ

選択科目Ⅱは、英語圏の大学での留学 (Study Abroad) をとおして、コミュニケーション能力のさらなる伸長を目的として設けられている科目群である。英語コースでは2年次に1年間の Study Abroad が必修となっており、2単位以上の単位取得が義務づけられている。

・異なる文化圏での生活経験と実践的な学修をとおして、英語運用能力を伸長させるとともに、異文化に関する幅広い知識と教養を身につける。

・自律的学修と対話、自己表現を重んじる人文科学、社会科学系正課科目の授業を通じて、専門的学修の基盤となる知識と教養を身につけると同時に、課題解決のために主体的に学ぶ能力と論理的思考力・表現力を養う。

・異なる文化や価値観を持つ人々との対話を通じて、偏見にとらわれることのない寛容の精神を養い、相互理解にむけて努力する態度を身につける。また異文化間の様々な違いを乗り越えて協働しながら、課題解決に向けて主体的に取り組む行動力を養う。

▶ 選択科目Ⅲ

専門知識を補足し、真の教養人を養成するために選択科目Ⅲ (14単位以上) を設けている。選択科目Ⅲは幅広い教養を養う教養系科目群である。ここには、全学共通教養教育科目 (同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端・複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目及びテュービンゲン大学 IES 科目が含まれる。選択

科目Ⅲは、専門知識だけではなく、グローバル社会の諸分野で facilitator、negotiator、administrator として活躍できるようになるという目標を実現するために、広い視野と豊かな教養を得ることを目的としている。また、在学中から卒業後のキャリア設計を視野に入れ、協働性や主体性を身につけ、卒業後の人生設計ができるようになるために、キャリア形成支援科目の履修を推奨している。

● 中国語コース

▶ 必修科目

卓越したコミュニケーション能力を有する人物を養成するため、必修科目では、基礎的知識・教養を身につける基礎講義科目 (4単位)、中国語運用能力の伸長を目的とした基礎・上級外国語科目 (28単位)、課題解決に必要な方法論や主体性、論理的思考力・表現力を養うゼミ関係科目 (16単位) からなる科目を設置している。

・1年次から2年次春学期では、少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、中国語運用能力を習得するとともに、基礎講義科目においてグローバル社会の構造と動態、および中国語圏社会の諸相や異文化理解に関する基礎的知識・教養を身につける。また、ゼミ関係科目での学生主体の学修を通じて、大学にお

ける自律的な学びを促すとともに、アカデミック・スキルを習得する。

・3年次秋学期から4年次では、ゼミ関係科目で専門分野に関する文献を講読し、課題について根拠を示して自らのことばで意見をまとめ発表する学修を通じて、論理的思考力・表現力を涵養する。また、3コースの学生が協力して一つのプロジェクトを企画、立案、運営する [Seminar Project] での協働作業を通じて、課題解決のために、多様な価値観を尊重しつつ主体的に行動する力を身につける。

▶ 選択科目Ⅰ

必修科目を補完・強化するために、選択科目Ⅰを設置している。

・選択科目ⅠA群1類 (演習系、6単位以上) は、主に低年次生を対象に中国語のリスニング・ライティング能力の伸長を目的とした選択科目群である。演習形式の授業を通じて、中国語ネイティブの発話を理解し、自らの考えを論理的に表現できる能力を養う。

・選択科目ⅠA群2類 (演習系、8単位以上) は、より高度な実践的中国語運用能力の習得を目的とした選択科目群である。対話や自己表現を重んじる実践的な演習形式の授業を通じて、多様な主張や意見に耳を傾け、問題点を整理し、社会の様々な場面において中国語を使って自らの意見や主張を論理的に述べるができる表現力を養う。

・選択科目ⅠB、C、D群 (講義系) は、グローバル化した現代

社会におけるコミュニケーションの役割や異文化に対する深い理解力を養う専門講義系科目群である。中国語圏社会の構造と動態に関するB群、異文化理解とコミュニケーションに関するC群、ことばの科学に関するD群のそれぞれから4単位以上の履修を義務づけ、文献の講読やリサーチをとおして専門的な知識を身につけると同時に、コミュニケーションを論理的に分析する思考力と、自らの考えを根拠とともに説明、議論できる表現力を養う。

・選択科目ⅠE群 (英語、8単位以上) は、グローバル社会に必須である英語を学修することを目的とした科目群である。少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、世界を複眼的かつ相対的に見る視野を涵養し、現代社会の多様性に対する理解を深めるとともに、英語によって自らの考えや意見を述べるができる表現力を養う。

▶ 選択科目Ⅱ

選択科目Ⅱは、中国語圏の大学での留学 (Study Abroad) をとおして、コミュニケーション能力のさらなる伸長を目的として設けられている科目群である。中国語コースでは2年次春学期から3年次秋学期にかけて、1年間の Study Abroad が必修となっており、2単位以上の単位取得が義務づけられている。

・異なる文化圏での生活経験と実践的な学修をとおして、中国語

運用能力を伸長させるとともに、異文化に関する幅広い知識と教養を身につける。

・異なる文化や価値観を持つ人々との対話を通じて、偏見にとらわれることのない寛容の精神を養い、相互理解にむけて努力する態度を身につける。また異文化間の様々な違いを乗り越えて協働しながら、課題解決に向けて主体的に取り組む行動力を養う。

▶ 選択科目Ⅲ

専門知識を補完し、真の教養人を養成するために選択科目Ⅲ(14単位以上)を設けている。ここには、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端・複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目及びテュービンゲン大学 IES 科目が含まれる。

選択科目Ⅲは、専門知識だけではなく、グローバル社会の諸分野で facilitator、negotiator、administrator として活躍できるようになるという目標を実現するために、広い視野と豊かな教養を得ることを目的としている。また、在学中から卒業後のキャリア設計を視野に入れ、協働性や主体性を身につけ、卒業後の人生設計ができるようになるために、キャリア形成支援科目の履修を推奨している。

●日本語コース

▶ 必修科目

卓越したコミュニケーション能力を有した人物を養成するため、必修科目では、基礎的知識・教養を身につける日本語学や異文化理解の講義科目(16単位)、日本語運用能力の更なる伸長を目的とした日本語スキルアップ科目群(12単位)、課題解決に必要な方法論や主体性、論理的思考力・表現力を養うゼミ関係科目(18単位)からなる必修科目を設置している。

・1年次から2年次では、少人数で行われる実践的演習形式の授業をとおして、日本語運用能力を習得するとともに、講義科目において日本語の基礎的な理論とその応用、および異文化理解に関する基礎的知識・教養を身につける。また、ゼミ関係科目での

学生主体の学修を通じて、大学における自律的な学びを促すとともに、アカデミック・スキルを習得する。

・3年次から4年次では、ゼミ関係科目で専門分野に関する文献を講読し、課題について根拠を示して自らのことばで意見をまとめ発表する学修を通じて、論理的思考力・表現力を涵養する。また、3コースの学生が協力して一つのプロジェクトを企画、立案、運営する「Seminar Project」での協働作業を通じて、課題解決のために、多様な価値観を尊重しつつ主体的に行動する力を身につける。

▶ 選択科目Ⅰ

必修科目を補完・強化するために、選択科目Ⅰを設置している。

・選択科目ⅠA群(主として演習系、10単位以上)は、より高度な実践的日本語運用能力の習得を目的とした選択科目群である。日本の時事問題についての議論や自己をアピールするための方法論を身につける実践的な演習形式の授業を通じて、客観的分析力と、自らの考えを説得的に表現できる力を養う。また、日本語と母語(中国語、あるいは、コリア語)の通訳の理論や実践を通じて、通訳としての的確な表現力の獲得を目指す。

・選択科目ⅠB群(6単位以上)は、日本の文化、地理、歴史、経済、

貿易、法、政治についての専門講義系科目群である。京都を中心に発展した伝統文化からクールジャパンに代表される現代文化まで幅広く扱う。文献の講読やリサーチをとおして専門的な知識を身につけ、日本の文化・社会に対する深い理解を養う。

・選択科目ⅠC群(6単位以上)は、必修科目で学んだ基礎的な知識をさらに広く深く発展させるための専門講義系科目群である。歴史的な観点、日本の地域性、ジェンダーなどによる日本語の多様性や、日本語を教える、あるいは、外国語と比較して見えてくる日本語の特徴などについて、新しい知識を獲得する。

▶ 選択科目Ⅱ

選択科目Ⅱ(演習系、6単位以上)は、現地実習や特別講師を招いて、必修科目や選択科目Ⅰ群で学修した日本の文化や社会についての少人数による演習を行い、知識の定着を図るために設けられている科目群である。体験学習を通じて、主体的に他の受講

者と協働して学ぶ能力、学んだことを論理的思考力によって表現する能力を養う。また、在学中から卒業後のキャリア設計を視野に入れ、協働性や主体性を身につけ、卒業後の人生設計ができるようになるために、キャリア形成支援科目の履修を推奨している。

▶ 選択科目Ⅲ

専門知識を補完し、真の教養人を養成するために選択科目Ⅲ(母語を除く外国語教育科目7単位以上)を設けている。ここには、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端・複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、他学部設置科目、日本語・日本文化教育科目(日本事情科目)、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目及びテュービンゲン大学 IES 科目が含まれる。選択科目Ⅲは、専門知識だけではなく、グローバル社会

の諸分野で facilitator、negotiator、administrator として活躍できるようになるという目標を実現するために、広い視野と豊かな教養を得ることを目的としている。

・選択科目Ⅲでは、母語を除く外国語教育科目7単位以上を義務付けており、日本語に加えて、母語以外の外国語を習得することを目的としている。外国語の習得によって、グローバル化した社会を複眼的かつ相対的に見る視野を涵養し、社会の多様性に対する理解を深めるとともに、日本語以外の外国語によって自らの考えや意見を述べるができる表現力を養う。

〈2016年度生対象〉 カリキュラム・ポリシー

極めて高い外国語運用能力の習得を目指し、グローバル化した現代社会に対応すべく、米国の 21 世紀に向けた外国語教育指針 (5C's) を取り入れて教育課程を編成している。

5C's とは以下のコミュニケーションに不可欠の 5 つの英単語 communication、cultures、connections、comparisons、communities の頭文字を取ったものである。コミュニケーションのための実践的・実用的な高度な外国語運用能力を習得させ (communication)、グローバル化した現代社会と異文化や外国語に関する情報を獲得し (cultures & connections)、習得を目指す外国語が用いられている社会に実際に加わり (communities)、その外国語や異文化に対する理解を深めつつ母語や自国文化を比較・相対化すること (connections & comparisons) は、本学部が育成を目指す facilitator、negotiator、administrator としてグローバル社会の諸分野で活躍するための要件として必須のものである。本学部の全ての科目はこの目的の実現に貢献するように構想されている。

学部の 3 コースの教育課程は、必修科目、選択科目Ⅰ (演習系)、選択科目Ⅰ (講義系)、選択科目Ⅰ (初修外国語ないし共修外国語 [英語コースと中国語コースのみ])、選択科目Ⅱ、選択科目Ⅲから構成されている。

▶ 必修科目

必修科目は、本学部が目指す高度な外国語運用能力・コミュニケーション能力を養成するために不可欠な基礎講義科目・基礎語学科目群・ゼミ関係科目群からなる。英語コースでは 42 単位、中国語コースでは 48 単位、日本語コースでは 46 単位が必修科目となっている。必修科目の比率が本学の他の学部に比してかな

り高いが、これは卓越した外国語運用能力を駆使して、グローバル社会の諸分野で facilitator、negotiator、administrator として活躍できるようになるという目標を実現するための積極的方策の反映である。

▶ 選択科目Ⅰ

選択科目Ⅰ (演習系) は必修科目で養成する言語運用能力・コミュニケーション能力を実習面で伸長することを目的とする科目群であり、選択科目Ⅰ (講義系) はコミュニケーションを円滑に行えるようにするための背景的知識を習得させるための科目群である。

選択科目Ⅰ (演習系) A 群は、より高度な実践的外国語運用能力・技能の習得を目的とした選択科目群である。グローバル社会の構造と動態及び異文化を理解できるようにするために、選択科目Ⅰ (講義系) が設けられている。選択科目Ⅰ (講

義系) はグローバル化した現代社会と異文化に対する深い理解力を養う専門講義系科目群であり、各コースとも選択科目Ⅰの B 群、C 群、D 群に関連科目群を配し、それぞれの群から一定の単位の履修を義務づけている。

選択科目Ⅰ (初修・共修外国語) は、グローバル化した社会を複眼的かつ相対的に見る視野を涵養し多文化に対する理解を深めるために、専攻する外国語のほかにもう一つの外国語を学習させることを目的とした科目群である。

▶ 選択科目Ⅱ

選択科目Ⅱはグローバル社会に関する幅広い教養と外国語運用能力を基礎に、高い倫理観をもってコミュニケーションの橋渡しとなるために、習得を目指す外国語が実際に使われている国においてその外国語の習得と異文化理解を目的として設けられている科目群である。選択科目Ⅱは、英語コースと中国語コースにおいては、「Study Abroad」であり、約 1 年間、当該外国語が使用されている国での研修を義務化し、教育課程に組み込んでいるのが本学部の特徴である。履修単位の修得は、24 単位程度を目安

としている。日本語コースは留学生が対象であるので、「Study Abroad」に相当するものとして、選択科目Ⅱに配された「日本の伝統文化演習 A・B」、「日本の現代文化演習 A・B」、「日本の社会実習 A・B・C」、及び「インターンシップ A」から 6 単位以上の履修を課している。いずれのコースにおいても、各言語圏での実体験を通して各外国語の運用能力を高めるとともに異文化に対する理解を深め、コミュニケーションの橋渡しとなる人材養成を目指す。

▶ 選択科目Ⅲ

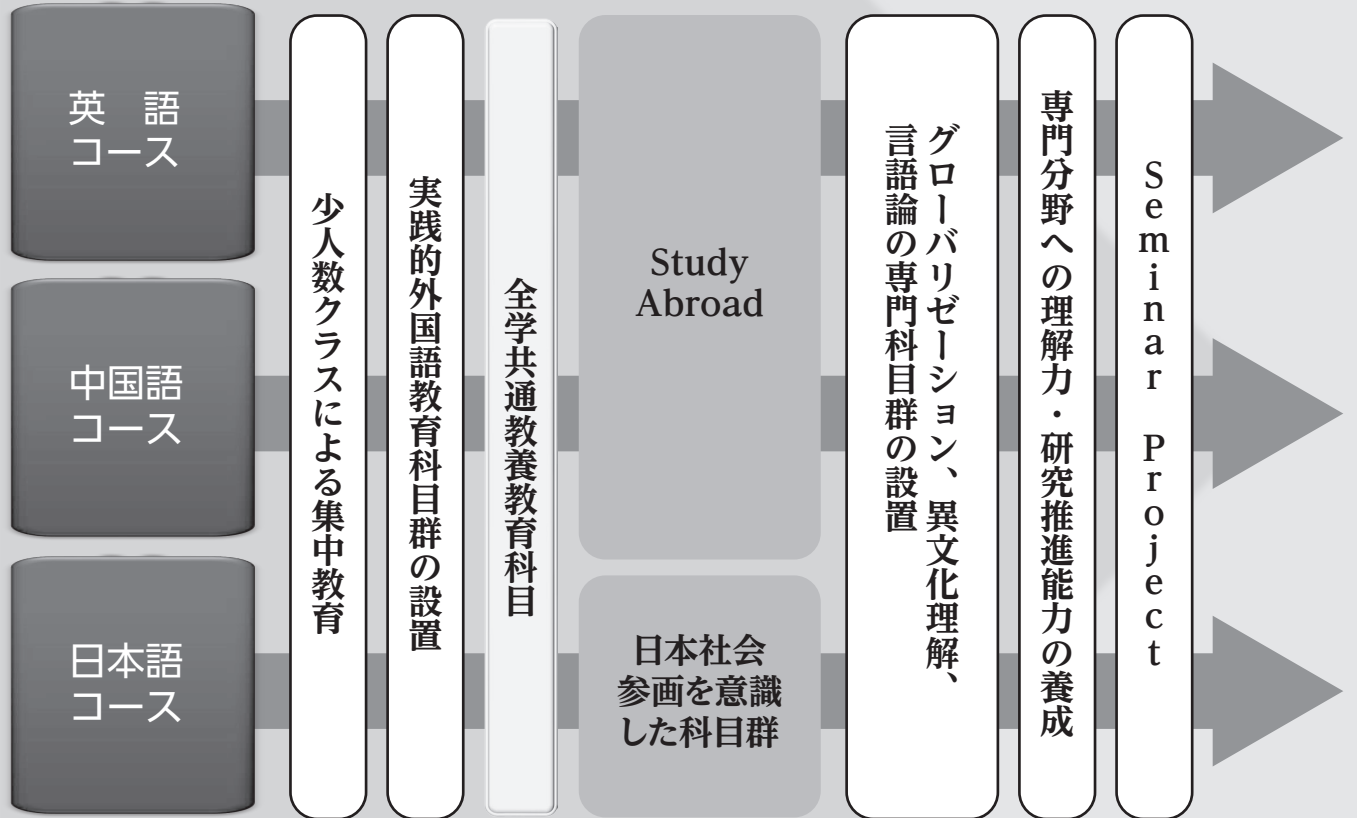
専門知識を補足し、真の教養人を養成するために選択科目Ⅲを設けている。選択科目Ⅲは幅広い教養を養う教養系科目群である。全学共通教養教育科目 (同社社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端・複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、他学部設置科目、日本語・日本文化教育科目のうち日本事情科目 (日本語コースのみ)、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目及びテュービンゲン大学 IES 科目を選択科目Ⅲに位置づけ、そのなかから 14 単位

(日本語コースは全学共通教養教育科目の外国語教育科目内から 7 単位以上。ただし、母語を除く) の履修を義務付けるものとする。選択科目Ⅲは、専門知識だけではなく、グローバル社会の諸分野で facilitator、negotiator、administrator として活躍できるようになるという目標を実現するために、広い視野と豊かな教養を得ることを目的としている。また、在学中から卒業後のキャリア設計を視野に入れて人生設計ができるようになるために、キャリア形成支援科目の履修を推奨する。

1

グローバル・コミュニケーション学部 カリキュラムの特徴

実践力と豊かな教養を養う学び



グローバル・コミュニケーション学部での学びのポイント

実践的な学びを通して身につくコミュニケーション能力

言語運用能力・コミュニケーション能力を養成する演習系科目と文化・社会の背景知識を学ぶ講義系科目があります。特に演習系科目では外国語の「話す、聞く、書く、読む」能力を確実に強化するため、少人数クラスを編成し、教員が学生一人一人をきめ細かく指導。体系的・段階的なカリキュラムによって、実践的なコミュニケーション能力を身に付けます。

英語・中国語コース必修の Study Abroad

英語コースと中国語コースの全学生は、それぞれの言語圏の大学において1年間の Study Abroad を体験。現地での学びを通して、極めて高い外国語運用能力の習得と異文化理解の深化を目指します。

3コース共通必修の Seminar Project

Seminar Project では、3つのコースの学生が協力して、国際会議や文化交流などのプロジェクトを企画・立案、運営します。学生が主体となってプロジェクトを遂行することで、社会で通用する実践的なコミュニケーション能力を磨きます。

グローバル社会で要求される能力

Communication

人と対話する力
Communicate in languages other than native language

Cultures

異文化についての教養
Gain knowledge and understanding of other cultures

Connections

既存の知識と外国語を通して得た知見を結びつける統合力
Connect with other disciplines and acquire information

Comparisons

さまざまな言語や文化の違いを理解し尊重する力
Develop insight into the nature of language and culture

Communities

異なる言語・文化コミュニティーへ積極的に参加する力
Participate in multilingual communities around the world

身につく能力

グローバル社会で活躍できる人材へ

- C ommunication
- C ommunities
- C ultures
- C omparisons
- C onnections



取得目標

英語コース

TOEIC® LISTENING AND READING
テスト 850 点以上
TOEFL iBT®テスト 79 点以上
(TOEFL ITP®テスト 550 点相当)

中国語コース

中国語検定 2 級
漢語水平考試 (HSK) 6 級
(合計点の 60% 以上得点)

日本語コース

J.TEST 実用日本語検定 準 A 級レベル
BJT ビジネス日本語能力テスト J1 レベル

グローバル社会を舞台に活躍できる人材

Facilitator

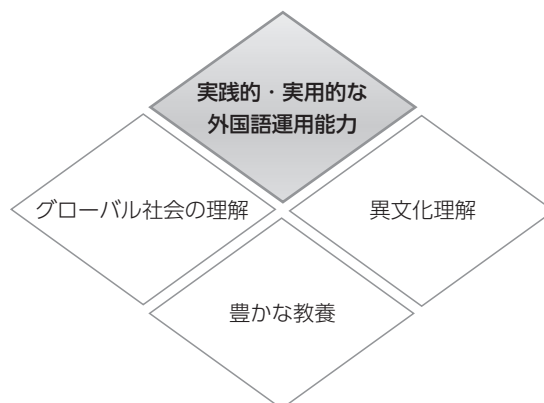
ビジネスや文化交流などのプロジェクトをスムーズに“推進”する。

Negotiator

多様な課題やニーズに対応するために人と“交渉”する。

Administrator

業務を円滑に遂行するために組織を“管理”する。



2

科目履修について

学位の取得に必要なこと

グローバル・コミュニケーション学部で学位を取得するためには、4年以上修学し（※休学期間は修学期間には含まれません）、所属するコースが定めるカリキュラムに沿って授業科目を履修し、所定の単位（「卒業のための要件」を満たす単位。以後、「卒業単位」と表記します）を修得しなければなりません。卒業要件を満たした場合、学士（グローバル・コミュニケーション学）の学位が授与されます。

単位制について

学部ごとの教育課程（カリキュラム）に定められた授業科目を登録・履修し、試験に合格することにより、それぞれの授業科目所定の単位を得、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

セメスター制について

同志社大学ではビジネス研究科を除くすべての学部・大学院研究科で「セメスター制」を実施しています。セメスター制では、1年を2つの学期（春学期、秋学期）に分け、学期ごとに授業が完結し、試験を行って成績評価をすることになります。各学期終了後、成績を通知します。

ただし、履修科目の登録については、秋学期に履修する科目も春学期の登録期間に登録してください（秋学期の登録期間に登録するよう指示がある場合を除く）。

授業1週目（DO Week）と授業15週目のオンデマンド配信の受講方法について

2024年度からの新学年暦では通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスからURLを確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学HPに掲載しています。以下URLもしくはQRコードから詳細を確認してください。

また、授業15週目のオンデマンド配信を含めて、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■2024年度からの学年暦

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html



グローバル・コミュニケーション学部設置科目について

■ 必修科目

学部の専門分野を学ぶ上で核となる科目群です。段階的に学べるよう、科目ごとに履修年次が定められています。

■ 選択科目

卒業に必要な単位として認められる科目のうち、必修科目以外の科目を指します。グローバル・コミュニケーション学部の選択科目は、Ⅰ～Ⅲに分類されます。

<2018年度以降生>

		英語コース	中国語コース	日本語コース
Ⅰ	A群	English Proficiency Skills	実践的中国語	実践日本語
	B群	Global Issues	グローバル論	グローバル論
	C群	Cultural Issues	異文化間交渉論	日本文化論
	D群	Language Issues	中国語論	日本語論
	E群	初修外国語	英語	日本語および第二外国語
	F群	教職関係		
Ⅱ		Study Abroad (2年次春学期・秋学期)	Study Abroad (2年次秋学期・3年次春学期)	演習・実習等
Ⅲ	<p>■全学共通教養教育科目 同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、イタリア語）、保健体育科目</p> <p>※詳細については、該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」(別冊)を参照して下さい。</p> <p>■他学部設置科目</p> <p>■日本語・日本文化教育科目（日本語コースのみ） 日本事情科目</p> <p>■大学コンソーシアム京都単位互換科目</p> <p>■同志社女子大学単位互換科目</p> <p>■チュービンゲン大学 IES 科目</p>			

<2017 年度生>

		英語コース	中国語コース	日本語コース
I	A群	English Proficiency Skills	実践的中国語	実践日本語
	B群	Global Issues	グローバル論	日本文化と日本社会
	C群	Cultural Issues	異文化間交渉論	社会と日本語及び日本語論
	D群	Language Issues	中国語論	
	E群	初修外国語	英語	
	F群	教職関係		
II		Study Abroad (2年次春学期・秋学期)	Study Abroad (2年次秋学期・3年次春学期)	演習・実習等
III		<p>■全学共通教養教育科目 同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端・複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、イタリア語）、保健体育科目</p> <p>※詳細については、該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」(別冊)を参照して下さい。</p> <p>■他学部設置科目</p> <p>■日本語・日本文化教育科目（日本語コースのみ） 日本事情科目</p> <p>■大学コンソーシアム京都単位互換科目</p> <p>■同志社女子大学単位互換科目</p> <p>■チュービンゲン大学 IES 科目</p>		

<2016 年度生>

		英語コース	中国語コース	日本語コース
I	A群	English Proficiency Skills	実践的中国語	実践日本語
	B群	Global Issues	グローバル論	日本文化と日本社会
	C群	Cultural Issues	異文化間交渉論	社会と日本語及び日本語論
	D群	Language Issues	中国語論	
	E群	初修外国語	英語	
II		Study Abroad (2年次春学期・秋学期)	Study Abroad (2年次秋学期・3年次春学期)	演習・実習等
III		<p>■全学共通教養教育科目 同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端・複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、イタリア語）、保健体育科目</p> <p>※詳細については、該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」(別冊)を参照して下さい。</p> <p>■他学部設置科目</p> <p>■日本語・日本文化教育科目（日本語コースのみ） 日本事情科目</p> <p>■大学コンソーシアム京都単位互換科目</p> <p>■同志社女子大学単位互換科目</p> <p>■チュービンゲン大学 IES 科目</p>		

3

科目登録について

登録単位数の上限

(1) 1年間の登録単位数の上限

1年間に登録できる単位数は以下のとおり定められています。

(単位)

		英語コース	中国語コース	日本語コース
年間登録最高単位数	1	44	44	44
	2			
	3			
	4			
Semester登録最高単位数	1	30	30	30
	2			
	3			
	4			
Semester登録最低単位数	全年次	1		

(2) 「免許資格科目」として登録する場合の上限

免許資格の取得を目的とする場合、科目登録の際に「免許資格科目」として申請すれば、(1)の上限を超えて登録することができます。

「学則第9条の5対象」について

同志社大学学則第9条の5では、文部科学省令である大学設置基準に規定されている遠隔授業の卒業必要単位数への算入上限を規定しており、学修支援システム DUET やシラバスに掲載している「学則第9条の5対象」は履修中の科目、もしくは単位修得済の科目がその「対象」であるか「対象外」であるかを示すものです。

本学では、2023年度までは新型コロナウイルス感染症における特例措置等により、すべての科目を「学則第9条の5」の「対象外」としてしています。これにより、すべての修得単位が卒業必要単位数へ算入されるため、この表示に留意する必要はありませんでしたが、2024年度以降は特例措置の適用がなくなるため、この項目に留意して履修計画を立てる必要があります。

所属する学部によって卒業必要単位数への算入上限単位数が決まっており、各科目が「対象」か「対象外」かについてはシラバスで確認してください。詳細については以下 URL もしくは QR コードから確認してください。

■ 「学則第9条の5対象」について

<https://duet-man.doshisha.ac.jp/student/article9-5.pdf>



科目登録の方法

この項では、科目登録の大まかな手順を紹介します。科目登録についての詳細は『登録要領』を参照してください。また、今年度の開講される科目は、本要項内「開講科目一覧表」に掲載しています。

1 今年1年間の履修計画を立てます。

- ・入学する年度／コースのカリキュラムと卒業要件を確認します。
- ・在学中の学修目標を達成するため、この一年間に「どのような授業を履修すればよいのか」、その履修計画を立てます。



2 履修する科目を選びます。

- ・「開講科目一覧表」を参照し、それぞれの科目の履修年次や単位数、開講期間、履修条件などを確認します。
- ・科目の内容は「シラバス」を参照してください。
- ・学部科目以外の科目については、各学部が作成する「履修要項」などで確認できます。



3 登録期間内に1年間分の履修科目を登録します。

- ・主に学修支援システム (DUET) から科目の登録を行います。
- ・科目によっては、定員が設けられている / 選考を行うなどの理由により、一般登録期間前に登録手続きが必要な科目もあります。登録の際は必ず「登録要領」も参照してください。



4 登録科目の確認をします。

- ・履修科目登録期間後に「登録科目確認表」が公開されます。「登録エラー」がないか必ず確認してください。登録エラーがある場合、「登録要領（登録エラーについて）」を確認のうえ、登録エラー修正受付期間内に必ず所定の手続きをとってください。
- ・登録エラーがなく、計画どおりの科目登録ができていれば科目登録の手続きは完了します。



5 (希望者のみ) 登録科目の履修を中止します。

- ・授業開始の1ヶ月後に「履修中止期間」を設けています。受講した結果、望ましい評価が得られないとご自身で判断した科目(一部の科目を除く)については、履修中止期間中に限り履修を中止できます。

「免許資格科目」・「自由科目」としての科目登録について

☞ 免許・資格課程の履修については、本要項内「免許・資格課程の履修について」を参照してください。

「免許資格科目」としての科目登録

免許資格課程の履修にあたっては、各学部の卒業に必要な単位に加え、各免許資格課程で定められた所要単位を修得しなければなりません。

教員免許（英語コース 2017 年度以降生のみ）や図書館司書、博物館学芸員の資格取得に履修が必要な科目を各年次の最高登録単位数とは別枠で履修することができます。この場合、「免許資格科目」として登録します。科目登録時に登録コードの種別欄に「M」を付けて登録してください。ただし、「免許資格科目」として登録した場合は、卒業単位には算入されません。

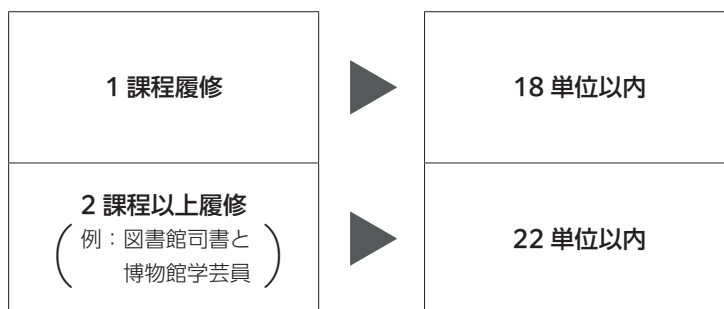
※ 「免許資格科目」として履修（「M」を付けて登録）できる科目は、『免許・資格関係履修要項』に掲載されている免許・資格取得に関わる科目のみです。

※ 免許・資格関係科目の登録種別欄で「M」を選択して登録（M登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「仮登録（一般登録期間に DUET にて可能）」もしくは「課程登録（説明会出席等の所定手続が必要）」を必ず行わなければなりません。手続方法は免許資格課程や年次によって異なるので免許資格課程センター事務室に確認を行ってください。

※ 「仮登録」もしくは「課程登録」を行った課程で定められている科目に限りM登録を行うことが可能となります。「仮登録」もしくは「課程登録」が完了していない場合、M登録することはできず登録エラーとなるので注意してください。

免許資格科目として1年間に登録できる最高登録単位数は、各年次の年間最高登録単位数とは別に、1課程では18単位、2課程以上の場合には22単位です。授業だけでなく、準備学習や復習など授業時間外の学習の重要性を考慮したうえで、所属学部および免許資格の登録制限単位の範囲内で、1年次から計画的に履修することが求められます。

免許資格科目としての年間登録可能単位数



「自由科目」としての科目登録

卒業に必要な単位として算入しない科目を自由科目といいます。科目登録時に登録種別「Z」をつけて登録することにより、任意の科目を自由科目として履修することが可能です。自由科目は卒業単位や GPA には算入されません。ただし、登録可能単位数には算入されますので注意してください。

	免許資格科目	自由科目
GPA（平均点）への算入は？	× NO（算入しない）	× NO（算入しない）
登録可能単位数上限を超えての登録は？	○ YES（可） （科目登録時に「M」を付けて登録する。）	× NO（不可）
卒業単位への算入は？	× NO（算入不可）	× NO（算入不可）
免許資格取得に有効か？	○ YES（有効）	○ YES（有効）

4

GPA 制度による成績評価について

GPA 制度は、大学教育における成績評価制度のグローバル・スタンダードとして、現在、国際的にもっとも認知度の高い制度です。グローバル・スタンダードに準拠した厳格な成績評価を導入することで、海外留学や外資系企業への就職等の際に、学修成果を証明する材料として用いることができ、また奨学金等の選考基準にも使われています。

GPA 制度の概要

各科目の成績評価を以下の判定基準にしたがい、5段階（A、B、C、D、F）で評価し、各成績評価段階に 4.0～0.0 の評点（Grade Point）を付与して、1 単位あたりの評点平均値（Grade Point Average）を算出する方法です。GPA は、不合格を意味する F 評価の成績を含めて以下の計算式で算出しますが、F 評価であった科目を再履修して D 以上の評価を得た場合、最後についた F 評価は新たな評価に書き換えられて算出されます。

■判定基準

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

【GPA 算出方法】

$$(\text{A} \times 4.0 + \text{B} \times 3.0 + \text{C} \times 2.0 + \text{D} \times 1.0 + \text{F} \times 0.0) / (\text{A} + \text{B} + \text{C} + \text{D} + \text{F})$$

①～⑤は A～F の評価がついた科目の単位数の合計

成績通知書には履修した全ての科目の評価と GPA が記載され、成績証明書には不合格科目を除く履修した全ての科目の評価と GPA が記載されます。

なお、一部「合格／不合格」で評価される科目もあり、当該科目は GPA には算入されません。

■成績評価の書き換えについて

F 評価であった科目を再履修して D 評価以上を得た場合、直近の F 評価は新たな評価に書き換えられます。

例

●再履修回数 1 回の場合

履修年度	科目名・クラス	評価
前年度	Introduction to Global Communication	F
今年度	Introduction to Global Communication	C

前年度の「F」評価が今年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって前年度の「F」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

●再履修回数 2 回の場合

履修年度	科目名・クラス	評価
前年度	Introduction to Global Communication	F
今年度	Introduction to Global Communication	F
翌年度	Introduction to Global Communication	C

今年度の「F」評価によって前年度の「F」評価は確定。よって以後の成績通知書にこの「F」評価は記載されます。

今年度の「F」評価が翌年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって今年度の「F」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

✓ <注意事項>

・「大学コンソーシアム京都単位互換科目」「同志社女子大学単位互換科目」「プロジェクト科目」は成績を書き換えません。

履修中止制度

1ヶ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないとご自身で判断した科目については、定められた期間中に、一定の条件のもと履修中止を認めます。

クレーム・コミッティ制度

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、所属の学部窓口にご相談ください。学部で相談の内容を確認後、必要に応じて各学部等のクレーム・コミッティが事実関係を調査し、クレームに関わる一連の対応について回答します。

なお、いかなる場合であっても、相談者の学生 ID や氏名が科目担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

追試験制度

病気またはやむを得ない事由により、定期試験ならびに本学部教授会が認める臨時試験（中間テスト等）を受験できなかった場合、追試験の申請を行うことができます。詳細については「学業履修について」の頁を確認してください。

成績評価結果の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラス毎の平均点および評点の分布を大学ホームページ上で公開します。

科目担当者による授業講評

科目担当者が、学期末試験やレポート試験結果および「学生による授業評価アンケート」などを含めた授業関連活動に関する講評を、大学ホームページ上で公開します。教員と学生間の教育的フィードバックを目的として実施されています。

5

免許・資格課程の履修について

本学では、次の4課程を設置しており、「免許・資格」と記載する場合はこれら4課程を指します。

本学設置資格課程	本学部で取得可能な資格
教職課程	○(英語コースの2017年度以降生のみ)
博物館学芸員課程	○
図書館司書課程	○
学校図書館司書教諭課程	○(英語コースの2017年度以降生のみ)

グローバル・コミュニケーション学部では、上記の通り、博物館学芸員課程と図書館司書課程の2課程を設置しています。また、英語コースの2017年度以降生を対象として、教職課程と学校図書館司書教諭課程を加えた4課程を設置しています。免許・資格課程の履修については、必ず自身の入学年度に応じた『免許・資格関係履修要項』で確認してください。複数の課程にわたって重複している科目は、修得すれば該当のいずれの課程の単位としても認められます。

なお、免許・資格関係に関する連絡事項は、免許資格課程センターホームページなどで確認してください。

教職課程について

取得できる教員免許教科

中一種免(英語) 高一種免(英語)

教職課程の科目について

教員免許状取得資格については「教育職員免許法・同施行規則」に定められた分類について所定の単位を修得しなければなりません。各分類と本学の科目の対応については、『免許・資格関係履修要項』で確認してください。また、それらの科目が卒業必要単位として認められるかどうかは、本要項内「開講科目一覧表」と『免許・資格関係履修要項』で確認してください。

博物館学芸員課程・図書館司書課程・学校図書館司書教諭課程の科目について

これら3課程の科目は、それぞれ「博物館法施行規則等」「図書館法施行規則に定める科目」「学校図書館司書教諭講習規定に定める科目」に定められています。各法令に定められた科目と本学の科目との対応は、『免許・資格関係履修要項』で確認してください。

また、それらの科目が卒業必要単位として認められるかどうか、また、認められる場合はどのカテゴリの科目として認められるのかは、本要項内「開講科目一覧表」と『免許・資格関係履修要項』で確認してください。